

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775501337		
法人名	有限会社 愛生会ケアサービス		
事業所名	ケアホーム愛生(たかやす)		
所在地	八尾市山本高安町二丁目3番8号		
自己評価作成日	平成22年3月15日	評価結果市町村受理日	平成22年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775501337&amp;SCD=320">c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775501337&amp;SCD=320</a>
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府大阪市中央区常磐町2-1-8親和ビル4F		
訪問調査日	平成22年4月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者・職員共に明るめの服装を選び、見た目にも元気で明るい家庭・職場である点
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「入居者にとって、職員にとってここを帰りたいと思う我が家(ホーム)にする」という理念の下、賑やかで、明るいホームにするよう職員一同で気持ちを揃えて業務に励んでいる。利用者同士も職員も一つの大家族のようで明るい。利用者のケアには独自に改良した「生活記録表」で全員の毎日の生活を把握し変化をチェックし、元気で過ごせるようよう支援している。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者にとって、職員にとってここを帰りたいと思う我が家(ホーム)にする」という理念の元に誰もが心休まる家庭的なホームを目指している。	「入居者にとって、職員にとってここを帰りたいと思う我が家にする」を理念とし、地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、具体的なケアについて意志の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町会や運営推進会議を通じて地域との情報交換に努めており、地域の行事や活動に参加することもある。	事業所は自治会に加入し、行事や活動に参加している。地域のボランティアの慰問や、利用者の知り合いの人の訪問を受けることもあり、地域とは日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣近所の高齢者の家庭にはホームが24時間体制であることを話し、困った事があれば言ってもらえるよう、折に触れて話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常的に行っている事を会議で話し合う事によって、職員も再確認ができる。参加者からの意見は今後の方針へ活かしたいと考えている。	包括支援センター、民生委員、老人会、利用者家族と、事業所から事務長、管理者、ケアマネージャーが出席して開かれている。内容はホームの現状説明の他、外部の情報も聞かれるが、会議として十分でない。	メンバーに自治会代表の参加を促し、地域住民との密接な関係と、相互協力関係を構築し、ホーム運営に対する活発な意見を引き出し、サービスの質向上に活かすことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者が運営推進会議に出席している。市の研修などの情報が以前より容易に得られるようになった。	市役所の担当部署から研修会の情報や通達はメールで受けている。事務長が同一法人の他の事業所の関連で時々訪問し協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通じて身体拘束についての知識を身につけ、身体拘束を回避する方法について常に考えるようにしている。	職員は内外の研修を通じ、身体拘束の対象となる具体的な行為を理解している。マニュアルを整備し、玄関は施錠していない。利用者が自由に出入りできる状態にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常識的な範囲で、虐待は行われていないと考えている。様々な困難な事例は職員のみならず、管理者、法人、必要に応じて地域包括支援センターなどに相談するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでも成年後見制度の利用をアドバイスした方(家族)もあり、現在でも他に成年後見制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面で説明している。疑問点は納得されるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が訴える不満や疑問は、その都度出来るだけ理解を得られるよう、丁寧な説明を心がけている。また意見箱を玄関に設置し、口頭以外の匿名の苦情等にも対応できるようにしている。	介護計画作成時、見直し時には、利用者家族の意見、希望を聞いている。その都度ケアに反映させている。家族の来訪時にもできるだけ話し合いをし、希望を聞きとるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は業務を通じて思ったことを随時話し合えるようにしている。また、ミーティング時に法人へ職員から直接意見を伝えたり、場合によっては個別に意見を述べる機会も設けている。	朝夕の申し送り時、随時開かれるミーティング時に職員の意見、提案を文書や口頭で、事務長・管理者に伝えている。これらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では、ヘルパーの勤務管理を行うと共に、毎月運営会議を開いて、定期的に情報交換を行いながら、それぞれの能力を生かせるような配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・計画作成担当者はリーダー研修を履修出来るよう配慮している。社外研修は職員がまんべんなく参加できるようにし、社内研修・ミーティングは原則全員参加とし、新任ヘルパーはOJTにて対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業者連絡協議会の施設部会に参加、必要に応じて情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りと傾聴する姿勢、小さな疑問にも理解が得られるよう説明をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時・面談時より家族の話を注意深く聴き、共感し、時にはアドバイスも出来るように心掛けている。入居後も家族の訪問時に必ず話をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、担当のケアマネジャーと共に今後の方針を検討する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活以外に、一緒にイベントやレクレーションをしながら互いの信頼関係を築きたいと考えている。入居の期間が長くなるにつれても信頼関係は自然と深くなっていくと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員、家族、医療関係者がチームとして入居者を支えて行こうというスタンスで互いに相談できる関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の生活や介護に支障がない限り、友人からの来訪はいつでも歓迎する。こちらからあまり連絡することは無いが、必要であれば対応できる。	馴染みの人の訪問を受けたり、馴染みの店での買物の支援をしたり、外出時に近所の人に声をかけられたり、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で過ごす時間が長いので、気の合う同士と一緒に座るようにしたり、そうでない場合はトラブルが起きないように配慮し、穏やかに時間を過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があればいつでも互いの訪問は可能。すでに退所された入居者の家族の方が、近くに来たからと立ち寄られて、その後のお話を聞いたこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向を聞き、出来るだけ希望に沿うように配慮しながら介護計画を立てるようにしている。	入居時のフェースシートをもとに、本人や家族からの聞き取り情報で本人の意向を察し、声かけ、誘導などで確認している。日によって思いが変わることも多いが、日々寄り添って生活することで意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の様子以外に、医療面の情報はかかりつけ医などから、生活歴などの情報は家族などから、出来るだけ多くの情報が得られるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、レクリエーション、現存機能を利用する運動(生活リハビリ)を通じて入居者の状態が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画について、介護・看護記録等や、職員の毎日の申し送り等でも本人の状態を共有し、体調変化はすぐかかりつけ医に連絡して指示やアドバイスを受け、家族からの申し出があれば取り入れる等のプロセスを経て作成している。	利用者がよりよい生活ができるよう作成した介護計画案をもとに、職員・家族で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、医師の意見も入れて、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録や生活記録等に記録し、特記事項は申し送り時に伝え、職員間で情報を共有する。介護計画の見直しに当たってはカンファレンスを開くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時の付き添いや、在宅やホームでの看取り、ホームから在宅ヘシフト時のケアマネジメント、保険利用あるいは自費等フレキシブルに対応することができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的を開催するボランティアによるギターコンサート等が好評を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要であれば、協力医療機関から医師、歯科医師や薬剤師、看護師による健康管理や適切な医療を受けられる体制を取っている。近隣の医療機関への受診も可能である。	利用者は入居時に協力医療機関をかかりつけ医とすることに同意し、2週間ごとに往診を受けている。希望があれば他の医療機関の受診支援の用意がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関からの看護師訪問時に入居者の状態を報告して指導などを受けている。また、施設のイベントなどにも参加してもらい時間を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は見舞いに出向き、家族や必要に応じて担当医、MSW等とも情報交換をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の強い希望で看取り介護もこれまでに経験している。家族、医師、事業所で十分に話し合い、密接に連携をとりつながら、ホームで見送った方がいる。	入居時、重要事項説明書に基づき重度化した場合の指針、看取りに関する指針の説明をしており、本人、家族、職員、医師で方針を共有している。家族の希望により看取り介護も経験した。	今後も事業所で看取り介護が想定される。その場合には、家族と話し合い、別に看取りに関する覚書を作成し、できること、できない事を明確にし、関係者間での方針の共有が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が定期的で開催している普通救命講習に、職員全員が順番に受講できるように配慮している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で話題にし、避難場所を確認している。避難訓練も定期的実施し、緊急セットや非常用水、寒い時期にも対応できるように毛布などの備蓄もある。	年2回避難訓練を行っている。消防署の指導を受け初期消火の訓練も行った。緊急セット、水、毛布の備蓄もある。が、避難訓練では、自力で歩行できない利用者の訓練は、行われていない。	利用者のADLが低下すればするほど、避難には、近隣住民の援助が不可欠である。そのための理解と協力が得られるような取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者の希望に沿った接し方をしている。	一人ひとりの人格を尊重した態度で接している。言葉かけは丁寧過ぎず、親しすぎず、トイレや入浴時の羞恥心に対する配慮も適切である。個人記録等は鍵付きロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えてくる方には出来るだけ自分で決めてもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段からの生活のリズムが崩れない程度であればなるべく各入居者の好きなようにしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の希望に出来るだけ浴うようにしているが、服装はなるべく明るめの服にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、調理師等厨房スタッフが専門的に作っており、なるべく入居者の好物が入るようなメニュー作りをしている。	専門のスタッフが食材購入から調理を担当し、利用者の好みに合わせた食事を提供している。介助の必要な利用者が多いため、職員は後で食事をしているが、食事を楽しむ雰囲気作りには努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節ごとのメニューを作成し、栄養バランスに偏りがないようにしている。水分摂取量も確認できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は洗面所で歯磨きをしている。人によっては洗面器をを使うがいをしてもらうなど、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自覚のある(尿・便意のある)方以外には、決まった時間に声かけを行なうほか、訴えに応じてトイレへ誘導している。排便に関してはチェック表を使って気を付けている。	利用者全員の一覧生活記録表に排便、排尿も記録しチェックし、個人別に月ごとの排泄表を作りチェックしている。変量、変調等を見逃さず適切にトイレに誘導し、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関しては確認しやすいようにチェック表を作り、水分摂取量も確認できるようにするとともに、繊維質の食事を取りいれたり、適度に運動するなどの工夫も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯は決まっているが、入浴順は入浴毎に変えるようにしている。	週3日午前中に入浴支援している。時間を変えたり、ゆっくりしたり、時には足浴にしたり、利用者の希望に沿った、入浴を楽しませている。入浴状況を一覧の生活記録表に記入し次回の入浴時に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で適度に休んだり、昼寝をとったり、居間でうたた寝したり、好きにしていることが多いが、適度に体を動かしたり、散歩に出かけたりと、昼夜逆転にならないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服薬している薬剤は、薬剤師より随時情報提供を受け、必要に応じて勉強会を開催してもらったり、出来るだけ理解できるように努め、職員全員が確認できるように最新の薬剤情報をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の情報に加え、入居後のその方の趣味や嗜好を取り入れた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日課の一つとして散歩があり、出かけられる方は戸外へなるべく出てもらうようにしている。	天気の良い日は毎日本人の希望に沿った散歩、買物等の外出を支援している。地域での夏祭りや敬老の集いなどにも参加している。普段行けないところへの外出は本人の希望が聞きとれず、殆どない。	普段は行けないような場所へも、本人の希望を把握し、出かけられるような努力を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な場合はホームで現金を管理し、散歩時などに本人が希望に応じて買い物が出るようにしている。残金が少なくなれば家族へ補充してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要であれば連絡の時間帯も考慮して、使用可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型であるが、入居者が可能な限り快適に居住できるように配慮している。また南側には庭があり、ガラス戸で日光の取り込みや外の様子がわかりやすい。	壁や天井まで季節ごとに飾り付けをし、玄関や庭にも季節を感じさせる工夫がされている。ソファが玄関にも置かれていて外出帰りに寛ぐのにもよい。居間兼食堂は和風の庭に面していて家庭的で居心地がよい。トイレ、浴室は清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の座りたい場所で自由な時間を過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持ち込みについては特に制限していない。入居者が望めば、その旨家族へ連絡している	居室はそれぞれの好みや調度品で設えられている。使い慣れたもの等を、多く持ち込んでいる利用者もあれば、その人らしい好みの部屋作りをしている人もいて、過ごしやすく工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場やトイレには手すりがあり、必要な方は利用している。また押し車にて歩行している方もいる。		